カトリック高松教区報

２０２０年7月5日（第１９６号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

わたしが、イエス様を、見つけねばならなかったのではありません。イエス様が、わたしを見つけて下さったのです。

おへんろ　四国八十八箇所霊場巡拝の記

鹿児島教区助祭　諏訪勝郎

諏訪助祭

この春、四国八十八箇所を巡拝した鹿児島教区の諏訪勝郎助祭から巡礼記が届きました。巡礼にあたって、教区からの呼びかけにより教区信徒が各地でお接待しています。巡礼記の抜粋を教区報に掲載する許可をいただきましたのでご紹介します。

この遍路道を、令和２年２月18日から３月26日まで、38日間かけて一人歩いた。その一部の記録である。まず高松教区司教座聖堂を訪問。諏訪司教は歓待してくださり、協力を快諾。既に高松教区で、鹿児島教区神学生（筆者）のおへんろを支援するよう各小教区に伝達済みと聞いた。恐縮至極。

鳴門教会では日本二十六聖人の道を歩いた時、古賀教会で知遇を得たＳ神父に再び会う僥倖に驚いた。

「なぜおへんろを？」とＳ神父。これには「なぜキリスト者が、仏教の修行である遍路をするのか？」との含意を見た。「わたしが日本人だから」―と答える。日本二十六聖人の道を歩いた時、じっさい至る所で目にしたもの、経験し意識したものは、聖人にゆかりの風光でも文物でもなく、キリスト教風な何ものでもなかった。心に沁みたのは、むしろ神代以来のまほろばのやまとごころ、即ち「もののあはれ」をしる事であった。日本二十六聖人の道を歩いて体感したことが、神学科３年時の神学論文につながった。日本を代表する巡礼路であるおへんろを歩く事を通して、これを更に考えたい。あらためて日本について考え、深めたい。これを噛み砕いて説明するのは、骨の折れる仕事だった。同席のＩ神父が、満面に笑みを湛え聞いてくださっているのが心強かった。午前７時。おへんろの第一歩を刻む。第一番・霊山寺の山門をくぐって、「あやし」という言葉でしか表現し得ないものを覚えた。

霊気というか妖気というか。朝まだき、数多の吊り燈籠に飾られた本堂や朱に彩色された宝塔等、どこか落ち着かぬ異国情緒、異次元な風。異界を感じるのである。「あやし」いのである。・・・

第九番・法輪寺（四国八十八箇所霊場で唯一、涅槃像をご本尊とする）に至ってようやく解消された。こぢんまりとした佇まい。装飾に乏しいそれが好ましい。日本の仏閣にあってなお、あやしきもの・うるはしきものとの意識の別の生じる事実に衝撃を覚えた。この時、あらためて「日本とは」という問いが浮かんだのである。・・第十一番・藤井寺から第十二番・焼山寺への山道は、「へんろころがし」の中でも屈指の難所と言われる。「へんろころがし」とは、おへんろさんを転げ落とす険路という意。たしかに胸突き八丁、急勾配の山道が続く。自然、息も荒くなる。直ぐに汗だく。自分の息遣いしか聞こえない。雑念の浮かぶ余地もない。無念無想。ひたすら登る。久練修行。山嶽・原野・海辺等、人里離れた場所で長期間、心身の訓練・修行をすること。・・３月６日足摺岬一帯、特に第三十八番から第三十九番間の宿泊事情がよろしくないと聞いていた。だから中村教会をベースに札所を打とうと考えた。お世話してくださったのはＭさん。子ども時分から、空海を「お大師さん」と呼び敬愛する環境に育った。当時は、玄関先で読経してくださったおへんろさんに、御礼として米や麦、時には金銭を手渡していたのを記憶する。小高い境内から中村の町を眺めつつ、Ｍさんの仰言った、仏様とも神様とも馴れ親しむ事は自然な事―を思う。・・いまにも泣き出しそうな曇天の下、遠く足摺岬を見遣りながら海浜を歩く。この既視感。映画『砂の器』。雪の吹き荒ぶ海浜を歩くおへんろさん親子二人。あの灰色の画面にそっくり。・・３月11日（水）　観自在寺―「観自在寺に来たら是非寄ってください」との伝言をいただいていたカトリック信者のＥさん宅へ。家族ぐるみの歓待に恐縮至極。

宇和島教会を訪う。主任司祭は大阪教区所属。こってこての大阪人。愉快な方。夕食の時、信徒会長、Ｅさん親子も来訪。信徒会長の手料理に舌鼓、楽しい一刻を過ごす。・・３月14日臼杵を過ぎ、畑峠遍路道と出交わす所に、三嶋神社がある。木造の鳥居に注連縄の架かった清浄なる構え。周囲の木と背後の山とが織りなす緑と渾然一体。まさしく杜。凛とした空気が漲り、立派な、厳かな、との形容に相応しい。神道の精髄を湛える神社である。三嶋神社を過ぎ、上畝々へと上る。

山間の里。桜を見た。下草に一面の菜の花。桜木は、菜の花の黄を下に敷き詰め、正真正銘の桜色を矜って立つ。美しい。目の覚めるような、というより、心に滲む。先の神社といい、この桜といい、日本人なら心震わせずにはいられない。「しき嶋のやまとごゝろを人とはゞ朝日にゝほふ山さくら花」―と思わず、本居宣長の歌に得心するのである。また本居宣長が永眠に望んだのもこのような景観かと勝手に想像する。・・３月26日竹屋敷を過ぎ、旧遍路道へ。槇川沿いをゆっくり登る。山門が見えた。

（２ページへ）

福岡教区・新潟教区に新司教

２０２０年５月17日、第７代福岡教区司教にヨゼフ・アベイヤ司教が着座しました。着座式はカトリック大名町教会において非公開で執り行われました。

福岡教区（福岡、佐賀、熊本）の司教は、宮原良治前司教が辞任した２０１９年４月から空位になっており、杉原寛信神父が使徒座管理者を務めていました。

アベイヤ司教は１９４９年スペイン出身。バルセロナで哲学・神学を学んだ後、日本へ派遣、１９８１年クラレチアン宣教会日本管区管区長、２００３年同会総長、２０１８年６月２日、大阪教区補佐司教に任命されました。

◇　◇　◇

教皇フランシスコは、２０２０年５月31日聖霊降臨の主日、神言修道会のパウロ成井大介師を新潟教区の司教に任命しました。

新潟教区（新潟、山形、秋田）の司教は、菊地功前司教が東京大司教区大司教に就任した２０１７年12月から空位になっており、菊地大司教が新潟教区使徒座管理者を兼務していました。

成井被選司教は、１９７３年愛知県出身。２００１年、司祭叙階。カリタスジャパンで東日本大震災被災地の復興支援活動に深く携わったほか、２０１３年より、神言修道会総本部の正義と平和・環境問題部門担当。現在は同部門の責任者を努めておられます。

はばたき

婆さんでも本を読む。

一般書籍しか読まない。教会関係の本は殆ど手がでない。読む気になれない。書棚にも数冊しか無い。

毎日のミサに綴じてある教皇様の目録も厚手の紙で真中にあってジャマをするから、届くとすぐどける。教皇様を嫌いではない、教皇様の意向の為に祈る。あの、ご心労は理解できるから。

たぶん、教会関係の宗教本は教科書で一般書籍はマンガ本であるかも知れない。教科書に親しむ信徒は優等生で、マンガばかりの信徒は落ちこぼれだろう。

しかし、たとえ落ちこぼれでも教室内の一員には違わない。でも落ちこぼれは、いつも教室の外に立たされる。

教会で落ちこぼれの年寄りが立たされる場所は。教会の落ちこぼれは何の役に立つのだろう。年寄りの出来る事は祈りと献金くらいかなあ。

落ちこぼれの婆さんも、神様が好き、教会ミサが好き、あらゆる人が好き。

今、ミサが中止される事態となり、私はなす術もなくオロオロと祈る他ありません。

数少ない教会本の中から、心に沁みる祈りを見つけました。

愛するイエス様

私が行くところ何処にでもあなたの香りを漂わせることが出来ますように、おたすけください。

私の魂をあなたの霊といのちで満たしてください。

私の全存在を貫きあなたのものとしてください。

私の人生があなたの光だけを輝かせるものとなりますように。

私を通して光輝き、私の内にお留まりください。

私に出会うすべての魂が、私の内におられるあなたの現存を感じ取ることができますように。

八幡浜小教区改築聖堂の諏訪司教による祝福式

小さな共同体の新たな宣教の拠点を構築して

八幡浜教会　西園寺良徳
清水裕子

愛媛地区南予ブロック八幡浜教会は、２０２０年５月30日に改築した八幡浜聖母幼稚園ホールに「小教区聖堂」をおき、聖母幼稚園の駐車場に小さな小教区聖堂を改築した。

この聖堂改築は、２０１９年１月に学校法人ロザリオ学園から使徒ヨハネ諏訪教区長（司教）へ、聖母幼稚園旧園舎の耐震審査の結果を受け、園舎改築が伝えられたことに始まった。

八幡浜教会は、１９３７年（昭和12年）に創立し、１９４９年（昭和24年）に現教会土地を購入、１９５０年（昭和25年）９月23日に聖堂を献堂し、11月１日に聖母幼稚園が新築、開園した。１９５４年（昭和29年）に幼稚園舎は拡張改築を行い、１９７１年（昭和46年）にはコンクリート建築となった。教会は１９７５年（昭和50年）に献堂25周年、１９９０年（平成２２年）に創立50周年、２０１７年（平成30年）に創立80周年記念行事を実施した。

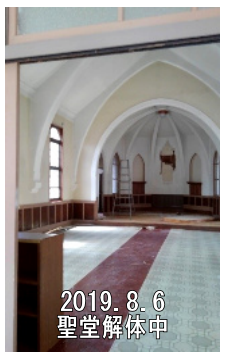
これに続く聖堂改築の経過は次の通りであった。２０１９年（令和元年）に高松教区、ロザリオ学園、八幡浜教会の３者協議が行われ、土地と建物および建築費について協議が行われた。この席で、教区とロザリオ学園から八幡浜教会に対して、八幡浜聖母幼稚園の存続と引き替えに聖堂取り壊しが要請された。その後、八幡浜教会で協議が続き、４月24日取り壊しに同意する教区への報告を行った。直後の４月28日には、ヨゼフ呉神父からアシジのフランシスコ申神父に担当司祭が交代した。６月23日、諏訪司教による八幡浜教会での改築工事説明会が行われ、教会敷地は全て幼稚園に貸与し、教会は幼稚園の駐車５台分の敷地に聖堂を改築するロザリオ学園提案に沿って進められることが説明された。

７月28日、旧聖堂で最後のミサが行われ、８月３日、聖堂引っ越しが行われ、５日から聖堂取り壊しが開始した。主日ミサは８月４日から公民館で集会を行い、８月25日からは日本基督教団八幡浜教会チャペルにて行われた。この日、諏訪司教出席の元で八幡浜聖堂建設委員会が発足した。９月12日旧聖堂の取り壊しが完了し、69年の聖堂の役目を終えた。10月から聖堂建設の業者選定、入札が行われたが、幼稚園の建築を先行するため、建設は中断した。２０２０年３月27日八幡浜聖母幼稚園は再開園し、３月28日聖堂の地鎮祭を実施した。地鎮祭後は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにミサは開催されなかった。その間、建築は順調に進捗し、５月30日床面積33・16平方メートルのミニ聖堂が竣工した。５月31日の聖霊降臨の祝日に、新型コロナウイルスの影響によるミサ自粛が解除され、申神父による聖堂の初ミサが行われた。慌ただしい１年４ヶ月の悲しみと寂しさの後に続く静かな喜びは、聖霊の息吹に浸される日に訪れた。

６月28日には諏訪司教による祭壇再安置と聖堂祝福式が行われた。同時に建設委員会解散式が行われ、建設委員長は信者の一致の証を奉献できたと述べ、謝意を表明した。また聖母幼稚園園長は小教区宣教を園児への教育を通してその一翼を担いたいと決意を述べられた。司教の教導によって小さな共同体の宣教拠点は、新たな一歩を踏みだした。

建設業者をはじめ多くの支援者に深い感謝を捧げ、どこにおかれても平和の使者となれるようありたいと願う。

2019.7.21 最後のミサ


2019.8.6 聖堂解体中

2019.8.9 聖堂解体中

2019.12.7 幼稚園が先行して建設

2019.9.27 聖堂縄張

2020.3.27 幼稚園完成

2020.4.12 聖堂基礎工事

2020.3.28 聖堂地鎮祭

2020.4.28 聖堂上棟式

2020.5.30 竣工式

2020.5.28 引き渡し前

再出発の小さな共同体

2020.5.31 聖霊降臨の祝日に初ミサ

2020.6.28 諏訪司教を囲むミサ後の参加者

2020.6.28 聖堂祝福式

（1ページから）

第八十八番・大窪寺（おおくぼじ）。結願（完歩）。納経所で、納経帳にご朱印・墨書。そして、結願証をいただく。もう歩く先はない。伽藍を眺める。「あやし」くもあり、「うるはし」くもある。しかし、ここまでのおへんろそのものが、「あやし」「うるはし」綯（みちのり）い交ぜな、錯綜たる道程ではなかったか。思えば、日々、夢現（ゆめうつつ）を歩いたようなもの。おへんろは、彼岸と此岸の通い路、補陀落東門かも知れない。四国全土が、おへんろで結界された神仏混淆一体の霊場ではなかったか。

おへんろ（四国八十八箇所霊場巡拝）を終え、

四国八十八箇所霊場巡拝の記

お世話になった方々に深く感謝を申し上げます。

司教様をはじめ、高松教区の司祭、修道者、信徒の皆さまには身に余るご厚意を賜りました事、心より御礼を申し上げます。途上で出会いお接待やご助言やお心遣いを賜った地元の方々やおへんろさんたちに心より感謝申し上げます。ほんとうに多くの方々のご厚意に支えられて結願する事が出来ました。かさねて御礼と感謝を申し上げます。

50ページにわたる諏訪助祭の巡礼記に記された、それぞれの札所における日本人の霊性を豊かに呼び覚ましてくれる深い内容に驚きを禁じ得ませんでした。

諏訪助祭はコロナの感染を避け司祭叙階の延期を余儀なくされています。どうぞお祈りください。

諏訪榮治郎司教

司祭紹介

4月に異動された司祭方をご紹介します。このほかに、松山教会のトアイ・ピーター神父が福岡に転出されました。

転出された司祭

丸亀教会
パスクアル神父

2017年10月18日から、丸亀教会で主任司祭として司牧を開始される。スペイン外国宣教会からの司祭としては一番若い（当時49歳）神父様であった。いつもニコニコと笑顔を絶やさず、誰にも優しく接する姿に人柄の良さがとても感じられた。

何といってもパスクアル神父様の魅力は、御ミサの中でのお説教がとても素晴らしく、ついつい話の中に引き込まれてしまう。外国籍の多い丸亀教会はまず英語からスピーチされ、続いて日本語と、ペルー人の信者がいる時にはスペイン語でも交互に話され、多彩な内容で盛り上がった説教は、外国人の信者からも好評であった。

また、沢山の責務を負われ、丸亀、善通寺の共同司祭はもちろんの事、教区の司教総代理であり、事務局長であり、高松刑務所の教誨師であり、丸亀、善通寺の聖母幼稚園のチャプレン等と、その合間にもスペイン語講座や、お母さんたちを対象にした講座を行い、若者を教会に呼び寄せる活動を常に熱心にしておられた。

時々、昔働いていた他県教会の信者さん達が、パスクアル神父様を訪ねて来られ、何処に赴任してもモテモテの神父様である。

ある日曜日、ミサで教会へ行くと、何となく教会の中の様子が変わっており、色々な物が移動して配置転換がされてあるのに驚き、誰がしたのだ！と聞くと神父様の仕業。

我々、年配者には時々テンポが合わない時もありましたが、いつも素晴らしいアイデアとスピード感あふれるテンポで、ついついマンネリ化しそうな教会内をぐいぐいとリードして下さいました。

数えればきりがないパスクアル神父様の魅力を十分に味わう時が無いほど、短い期間でしたが、これから故郷スペインで、宣教、司牧をしながら、年老いたご両親のお世話のために帰られると聞き、頑張って下さいとエールを送りつつ、またいつの日か日本に帰って来られるのを待ちながら、重ねてお礼の言葉とします。

どうかお元気でお過ごし下さい。ありがとうございました。

カトリック丸亀教会
太田　修

転入された司祭

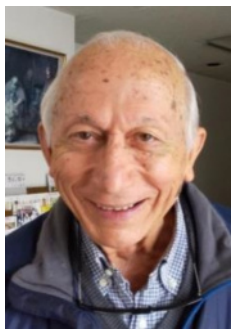
松山教会
アントニオ・リー神父

例年と違い、異動が約2ヶ月遅れましたが松山に来る前から主日ミサの再開準備を計画・実行されて6月からの主日ミサを迎えることができました。

率先して信徒と共に働いてくださる神父様です。

（プロフィール）
李孝俊（1980年3月3日生）大韓民國忠淸南道天安市成歡邑出身
2007～2008＝韓国カトリック大学（神学修士取得）
2010～2011＝聖ヨセフ大学・マカオ（キリスト教研究修士号取得）
2012～2013＝聖ヨセフ大学・マカオ（カウンセリングと心理療法士資格取得）
2015・11・8＝韓国ソウル市で司祭叙階
2015・12・10＝福岡教区箱崎教会担当司祭
2020・4～高松教区松山教会担当司祭

東讃ブロック
カンバラ・デシデリオ神父



カンバラ神父様が、東讃ブロック協力司祭として帰ってこられました。

2017年11月和歌山紀北教会（屋形町聖堂、古屋聖堂、今福聖堂、海南聖堂の四聖堂からなる教会）に異動されて、2年余りお留守にしておられましたが、またお会いすることができてみんな喜んでいます。

復活祭後にこちらに着任されると間もなく、あちこち信者宅に電話をして様子を聞いて回られたとのことで、以前と変わらずお元気で精力的な神父様です。

カンバラ神父様、これからもよろしくお願いいたします。

聖香油ミサ

聖なる油の祝福・司祭の約束の更新が行われる

6月29日、聖ペトロ・聖パウロ使徒の祝日に高松教区の聖香油ミサが行われました。

例年、聖週間に行われている聖香油ミサですが、今年は新型コロナウイルス感染症流行の影響で、延期となっていたものです。

諏訪司教司式のミサには、教区内から司祭17人、助祭3人、信徒約40人が参加して、司祭及び助祭の約束の更新、病者の油と洗礼の油の祝福、聖香油の聖別が行われました。

また、ミサの終わりには今年、司祭叙階25周年の銀祝を迎えられた聖ドミニコ修道会のファン・マヌエル・ゴンザロ神父に花束を贈りお祝いしました。

約束の更新

銀祝のお祝い

聖香油の聖別

香川県のカトリック幼稚園

～学校法人聖母学園が設置している幼稚園紹介～

学校法人聖母学園理事長　鈴木　聡

皆様が通われてる教会に隣接しているカトリック幼稚園についてはご存じだと思いますが、他の小教区教会に隣接しているカトリック幼稚園についてはご存じないことが多いと思いますので、ご紹介します。

香川県には「学校法人聖母学園」が設置しているカトリック幼稚園が６園あります。

1　長尾聖母幼稚園（長尾巡回教会に隣接）
　さぬき市長尾西６８１番地　Tel 0879-52-2294
2　高松聖母幼稚園（番町教会に隣接）
　高松市番町２丁目４番３１号　Tel 087-851-2372
3　桜町聖母幼稚園（桜町教会に隣接）
　高松市桜町１丁目８番１３号　Tel 087-831-0328
4　丸亀聖母幼稚園（丸亀教会に隣接）
　丸亀市幸町２丁目７番７号　Tel 0877-22-4529
5　善通寺聖母幼稚園（善通寺教会に隣接）
　善通寺市上吉田町４丁目９番２４号　Tel 0877-62-1087
6　観音寺聖母幼稚園（観音寺教会に隣接）
　観音寺市昭和町１丁目６番５７号　Tel 0875-23-0004

それぞれの幼稚園で制服や帽子等は異なっていますが、共通して次のことに取り組んでいます。

○　園生活全体を通して神様の心に触れること。
○　神様はいつもみんなのすぐ近くにいて、優しく見守ってくださっていることを園生活全体を通して子どもに伝えること。
○　神様とお話しする心、お祈りする心を園生活全体を通して育てること。

それぞれの幼稚園でどのような保育が行われているのか、ぜひ関心を持っていただけたらと思います。

地区・ブロックの話題

～松山地区～ ミサ再開 穏やかに祈れる環境づくり

松山教会

松山教会は、区域内で感染者集団が発生したことを警戒し、教区より1週間遅れて6月7日、三位一体の祭日からミサを再開しました。

5月末に650世帯に手紙を送付。アントニオ・リー神父様の就任あいさつとともにミサ再開の要領や注意事項を伝えました。主日のミサは密接を避けるため2回に分け、参加者は東南と西北に区分し、1カ月毎に交替します。センターにはユーチューブで配信した司式の動画をテレビに映して、子どもたちと保護者が参加するよう配慮しました。

体温測定や番号札で座席指定など再開初日は緊張気味でしたが、地域メンバーのきびきびした奉仕で手際よく進んでおり、コロナ禍でも穏やかに祈れる環境づくりに努めています。

～東讃ブロック～ オンラインで評議会

桜町教会

桜町教会では、集会の制限に伴い、オンラインミーティングを始めました。

初めはLINEのグループ通話を試し、続いて、ちまたで話題のZoom会議にも挑戦しました。まずは数人で接続練習をし、ミサが公開になった5月31日ミサ後、全員参加の会議をしました。評議員数名はカトリック会館に集まり（オンラインミーティングなのに現地集合）、会議室への接続を試みました。

ところが、Zoomは思ったよりも手強く、手取り足取り教え合いながら、1時間近くを要してなんとか全員接続できました。

後日行った2回目のZoom会議は接続開始から会議開始まで20分ほどと、大幅に進歩しました。これからも状況に応じオンラインで評議会をする予定です。

教区広報から

教区広報委員会では、教区報・インターネットで教区内小教区の情報を幅広くお伝えしていきたいので、皆様からの情報提供をお待ちしています。小教区の広報誌・新聞などに掲載された記事も歓迎です。各地区の広報委員を通じて教区広報に情報をお寄せください。

◇教区スケジュール◇

7月
- 1日（水）福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
- 5日（日）年間第14主日
- 7日（火）司祭評議会 13:30
- 12日（日）年間第15主日
- 19日（日）年間第16主日
- 23日（木）海の日
- 24日（金）スポーツの日
- 25日（土）聖ヤコブ使徒
- 20日（水）年間第17主日
- 7月下旬　宣教司牧評議会

8月
- 2日（日）年間第18主日
- 6日（木）日本カトリック平和旬間（～15日まで）
- 9日（日）年間第19主日
- 12日（水）下田武雄師命日
- 15日（土）聖母の被昇天　高松教区司教座教会献堂記念日
- 16日（日）年間第20主日
- 22日（土）天の元后聖マリア
- 23日（日）年間第21主日
- 24日（月）聖バルトロマイ使徒
- 27日（木）佐々木光雄師命日
- 30日（日）年間第22主日

新型コロナウイルス　～教区・国内の出来事～

月日	高松教区	国内
1/6		厚生労働省，新型コロナウイルスに関する初めての発表
1/16		厚生労働省，国内初の感染者発表
2/13		国内初の死者
2/25		政府，対策基本方針を公表
2/26	灰の水曜日	首相，全国的なスポーツ、文化イベントを「今後2週間は中止、延期、または規模を縮小する」ことを要請
2/27	司教文書発出 ・ ミサは主日も平日も通常通り行う ・ 感染の疑いがあるときにはミサへの出席は控える など	首相，全国すべての小中高校などを3/2から春休みまでの間、臨時休校するよう要請
2/29	2/27発出文書の補足 ・ 咳や熱がある場合のミサ参加自粛 ・ 聖堂内でも距離をとって着席 など	首相，新型コロナウイルスに関する初の会見「政府の対策について理解を求める」
3/5	司教文書発出 ・ 3/8（四旬節第２主日）からミサを中止する	
3/9		専門家会議，感染リスクが高まる「３条件」を示す
3/11		WHO，流行拡大を「パンデミック」に相当すると認定
3/20	司教文書発出 ・ 3/29（四旬節第５主日）からミサを再開する ・ 4/8（聖水曜日）聖香油ミサを行う	
3/24		首相とIOCバッハ会長、東京オリンピックにつき「遅くとも2021年夏までに開催する」と１年程度延期することを合意
3/26	司教文書発出 ・ 聖週間ミサは例年通り行う予定 ・ ミサは聖堂の窓等を開放して行うことなどに留意 など	
4/1	司教文書発出 ・ 聖週間の典礼を非公開で行う など	
4/7		首相，７都府県を対象に5/6までの期間で「緊急事態宣言」を発出
4/12	復活の主日	
4/16		首相，「緊急事態宣言」の対象を全国に拡大。ゴールデンウイークの旅行や帰省の自粛を国民に求める。
4/17	司教文書発出 ・ 緊急事態宣言の解除まで各小教区の主日の公開ミサは自粛する	
5/4		「緊急事態宣言」5/31まで延長
5/8	司教文書発出 ・ 非公開ミサの継続 ・ 高齢者，一人暮らしの信徒など孤立しやすい方々とのつながり（電話，手紙など）を保つこと など	厚生労働省、これまでの相談・受診の目安を見直し「37.5度以上の発熱が４日以上続く」との基準を削除
5/14		39県の緊急事態宣言解除
5/15	司教文書発出 ・ 高松教区では，現状の自粛体制を継続する	
5/21		近畿３府県の緊急事態宣言解除
5/24	司教文書発出 ・ 5/31（聖霊降臨の祭日）から，制限は避けられないが，すべての教会活動を正常化する	
5/25		５都道府県の緊急事態宣言解除
6/16	司教文書発出 ・ ７月からすべての教会活動を正常化する。どのように再開するかは主任司祭の判断に委ねる	

子どもと女性をまもる委員会

聖職者による性的虐待

相談窓口

電話番号：087-831-6659

相談窓口受付時間
月曜日から金曜日（祝日除く）
午前９時～午後５時

高松教区対応チーム

司教教書に想う　み言葉の分かち合い

昨今の世相に逆らうような表現にはばかりながら、古来「人は人の中で人となる」という教えがある。人は1人では生きてゆけない。人は人と互いに交わることで養われ、学び合いながら成長するのだという。信仰の分かち合いにも同じことが言えそうだ。

今年度の「司教書簡」で、諏訪榮治郎司教は「神の民の生涯養成」として〝み言葉の分かち合い〟を勧めておられる。「お互いが敬意を払いつつ、誠実にかかわり、祈りのうちに『養成される』必要がある」と強調されている。

分かち合うため、いくつか方法が提案されるとのこと。その前に分かりやすく示された「深めるもの」と「妨げるもの」を、しっかり会得しておきたい。心理学者でカウンセリングの専門家カール・ロジャーズは「深めるもののキーワードは『心を込めて聴く』こと」だと説いている。

ヤコブの手紙では『私の愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅くありなさい』（1・19）と諭している。何ごとも「より深く聴いて、話すのはその後で…」は「物の道理として十分心得ておくべきこと」との忠告に耳が痛い。

人間関係を円滑にする「交流分析」の創始者エリック・バーンも著書で「まずよく聴き分けて気付きを深め、自分の言葉で話すとき、その人がよりよい方向へと変わる力になる」と述べている。

諏訪司教は書簡の中で「イエスにどう耳を傾けるのか」と問われている。分かち合いには、イエスにきちんと向き合う姿勢で臨みたい。（M）